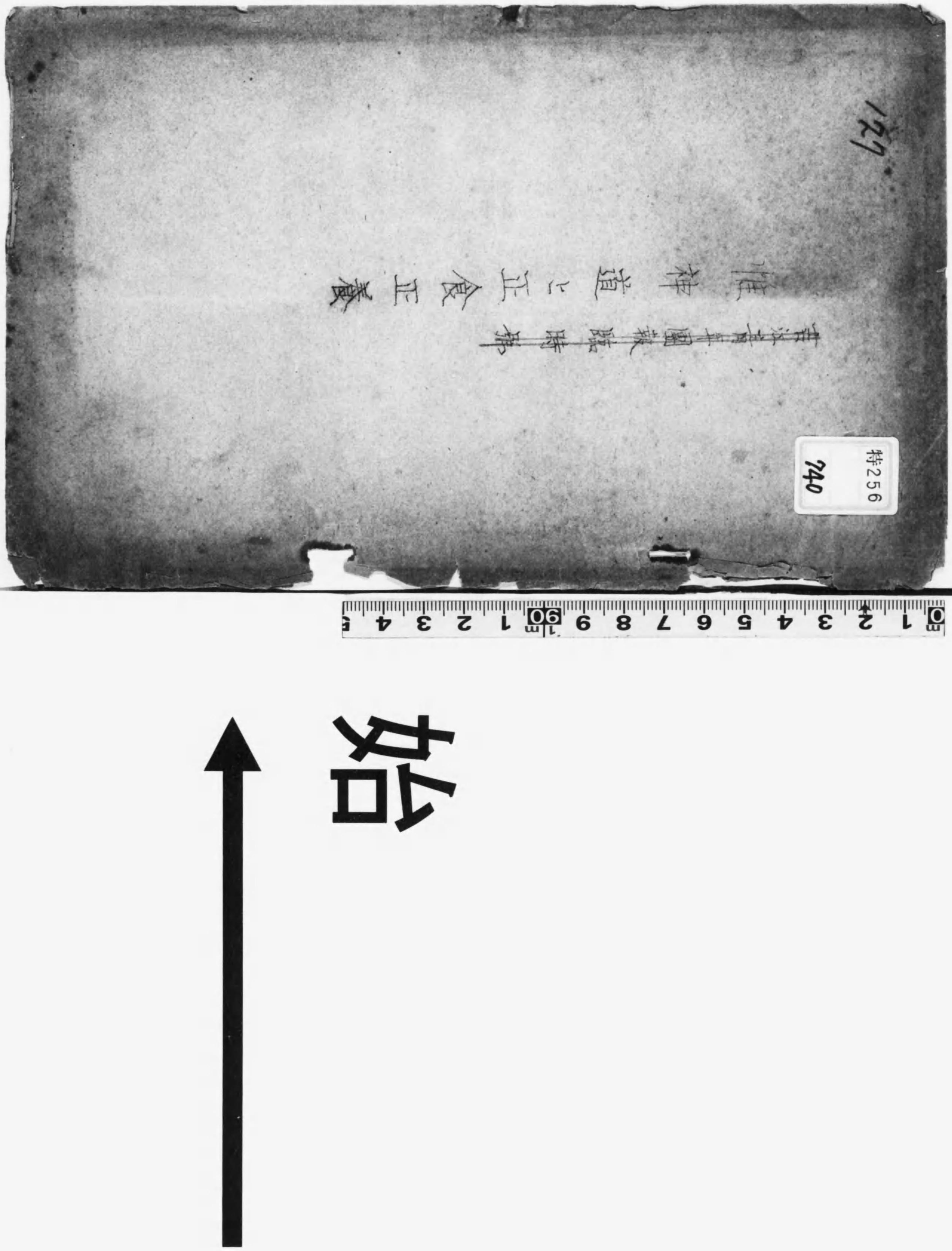

特256
740

特256
740

すべて
一切を拜し
一切を活かし
一切を喜ばす

萬人は躍め
萬人は凝ち
萬人は動く

謹シンデ此ノ葉ヲ前文部長
故立藤孝一君ノ靈ニ捧ゲ奉ル。

立山塾より帰りて

嶋　直　同

芝無やくが如き土帝の真中清澄なる深緑の山路をたどって熊野川の清流を眺め乍ら年賜たる文珠山の山道を探ねて山頂の立山塾本部に到着したのは丁度午前の太陽が頭上に輝きいてゐる時であった。古代めいた建物はとかく青年の好奇心を誘出してやまぬ。その屋中の入口の柱に曰く「實先界神人一如世界一家理想郷建設之地」

塾長は相撲留学、集合地は更に山頂にあらで半腹の黒牧道場のことである。漸くにして到れば冬と雖も足を洗って入り流れる汗を拭く暫くして太鼓の音打、集合の合圖だ、起立敬禮、国歌斉唱、立山の歌幕殿の訓辞があって更に正座、神前に額づき祓除祝詞もて一切のものをなつみ、やの大神の大前にひれ伏して礼拝がすむとやがて書食である。米の赤飯始めて食ふ野菜のまぜ、その時に上座の方から二木先生の曰く

「諸君！　本日の所でつかうのです。日本中の者が一度つかって捨てる、何たる贅沢な事でせう。割箸おあてがいふのです神のおあたへものを大切につかひませう。六日間大切に保存してつかって下さい。

「諸君！　本年は先ず眼を尽ナクリさせた。割箸が一生涯の箸、成程なるほど！　きてゐます。礼拝を終えて即飯を頂かうとすると更に曰く「あゝおいしい！　即飯だ、何といふおいしさ！　礼拝と終えて即飯を頂かうとすると更に曰く「あゝおいしい！　即飯だ、何といふおいしさ！　礼拝だ。何といふおいしい人だろう。丁度いい梅だ。おいしい！　わこの味は何物にも及ばない。のです。皆さんおいしいでせう。」さて食べて見ると、これは如何ばかりかの美味少く

例にお固い飯椀、お豆に漬物を見合せて當惑顔、さて又別の皿の上にもられた副食物はと見れば大博士の曰く「このお菜はアカザですよ、ほうれんそうの味噌がつけてある。生のお菜、栄養たっぷりのビタミン多量のアカザの葉です。生の野菜はとうまいものはない。それはと紙巻をつけて食べるとこれ又美味たおとらぬ味である。塩から味がなくて水くさい、食事も終ろうとする頃、茶に非ずして生水だ。二木博士の曰く「煎薬は水は清水こそ最適よい飲料水はありません。どれだけのんでも腹をこはしません」と流れて出づる清水こそ最適よい飲料水はあり腹のこは有るのは白米飯食の為に胃腸が弱ってゐるからです、家族一、とうなづき乍ら恩謝の礼拝をして先づ終る。　やがて又合図と共に神前の廣間に正座して待てば、元東京帝大教授医学博士二木謙三先生下あり、傾聴すれば其日疑ひ或は信じ遂に驚氣乎ら、自我の学説の疑問の点は次々に博らいで眞実の光明をかすかに見る事が出来る驚き感嘆の湧いてくるのみ我身ながら不思議の至りなでならぬ。一度きく二度驚す三度きく三度頷ふ、講話の進むにつれて話す人聞く人皆渾然として一体、額を伝って流れる汗もものかは、話す人きく人皆魂と魂とのふれ合ひの如何に妙なるかゝ実に驚嘆の極みである。

見る迄感激をもって「憑へる国を安り固めなせよ、子孫の為に祖先よりうけついだこの我国の建設は他なし、正食正養に依る成就さるべきの秋、若年よ、この道を信じ必ず行ひよ、天業翼賛に青年仕へませう……」博士の話は言葉の端々として絶える事なく、つきることなく、やはらかなる音調に青年はもう身も魂もとけこんで縛聴し感激の涙をぬらしてきいてゐる状は、これ一幅の名画ともいふべく、身は詩ともいふべきであらう。「さうだ〳〵」遠はない、先生々々」。純粋なる青年、熱血地にみなぎる憂国の涙みち〳〵たる先生、肝膽相照して語る何たる幸福、境地であらう。

「全国の思い出として各々永久に追憶致しませう」と今年一六才の少年の感慨深い一途正食正養の大旗を掲げ全国行脚の旅をつゞけらる、

一旦食正食正養の大行者が何たる偉大なる行者であらうさて講演の後は夜に入って孫宮大廣庭、會が行はるゝか例論議論、全く押し立つやうだ盛況先生上解決を仰ぐといふわけ……。聖なる殿堂に集ふ青年は全く神の子として育成されてゐるのだ。太鼓の音をきき、裸のまゝで三町余りの熊野川に入って、ミソギをするのだ被除祓祠をあげて、生れたまゝの姿になって、水をあびる、清めるのだ。邪悪を一掃するのだ聚天会のお日明るく麗の宮上に出向の緑草と朝露をふんで、立つとき、あゝ我等は神の子だを叫ばずにはをられなくなるのだ。さて道場へ帰って大祓祝詞をあげて神の大前にお供して伊勢参宮を誓ふ。次女青年座談、深呼吸、朝の講話、塾長先生下あるの講演感謝の念を次々と語られるには若人の憂国の至情は実に尖と燃えて感謝の涙はおとるおろかに。しのゝめの宮上に鳥の声さきくさ一同皆一斉に立って天業翼賛の歌鈴鐘とゝ共の合唱は実に遠の十時だ、然う一方、青年は、何かくれるかゝ、へこたれるものは一人もゐない、見れば二万坪に余る農場だ、早苗は雨かゝれて、干田の艶が深緑の色に朝露を浴びて、すっくとなってゐる。小豆大豆ごぼう、何やらもゆる陶望感を持つ緑を持つ、春を加今祖の足跡を大精進の暁を輝ふ。天の恵みの天業翼賛思なす。日すがら田ヲ動キテ日午ニ當ル、汗ハ滴ル禾下ノ土、誰カ知ラン盤中ノ飧、粒々皆辛苦全く汗だ、日はもう頭上に輝やいた、さあ行かう、かゝや待て水だ、よ！各国の水だ降りる〳〵出つておりるとこれは甘露の水だ、おいしい、あつ水にまさるものはなしと思はず叫ぶ。藤仙を思べて帰れば聖食だ、朝食はないのに腹はもうペコ〳〵だ何きたべてもおいしい、今度は氏の酬おいだ、氏の生食、茄子の生食も始まる外体ない食事を絶へて午後からは講話とふ次第である。

日を経るにつれて玄米加工実に面白い、おいしくなつたではないか。不思議だ、このまつ日神の境地へ行く事もまんざら不可能だ、各々もう道士然となつたところは一寸と面白い。しかも村松先生の如きは一切の自然をなげうつて一身を国家の安泰世界修理固成の大成へと心命を捧げられ、三山峯の山頂に三週間富士山頂で二週間の断食をせられたこの愛国の志士だ、手の指てきつては後裏の神命を仰ぎ、きつては仰ぎてもう五手は皆指が短くなつてゐるのを驚嘆したの程血こつて一摩叱咤、木刀をふりかぶりて偉大なる意合を聞かせられたところなもう我等は参つてしまつた

惟神道の行者古野先生の講演は論理整正なる一語のすきもなく、番かに解かれたところは、天晴六日間にて青年を道士にしあげてしまつた

これ誘る者、聞く者、各々の魂がしつかりとふれ合つた成果と外ならぬ。

偉大なる我日本民族、世界に冠たる天の益人、中津国の益荒雄、神の子日本

太古の神勅に依り約束づけられた将来は洋々として果てしかない

この心もて進まう、この意気込みもて進まう

時局打開、次の将来を背負ふ我等青年だ。萬歳！この語句にて意深くして長し、天長くして地久し。速へる三十億の蒼生、開け！救はれる日の来る事の遠からざる事を……。日の本、光の本、所復興は輝くて天壌を照らす。

園員諸君この冊子の説明では該に不完全なお話しにならぬ

しかし、とにかく、よくわかれ給へ、そして実生活に実践に励行して下さい

一二、、。

神を守る青年に告ぐ

文藝部長

過日五山塾黒牧道場に於て挙行せられた大国風發揚研修會について、諸君に即報告と研究の會をしなくてはならぬのであります。たが種々の都合に依り遅延致しました、誠に申譯ないと思つてゐるのですが、この度は、このパンフレットを以て頒る断片的に、又平易に書きつらねて更に足らない所は、座談會に依つて補はたいと思います、最初は私の特に耳に否魂に響いた事から逐次に断片的に申上げませう

そもそも私共の身体、精神、言葉をかへて申せば

「我」

この我こそは数千年前、悠遠の神代より之を祖先にうけてそして

この我を、数万年、永久の子孫に伝へねばならぬものである、

祖先にうけて、子孫に伝ふ

これを考ふる時、どうして安閑として起

秋たてなれば木の葉は落ちる

しかし、葉は落ちていま、この事落ちた農た

新芽の養分が残るのである

枯れるのでない、況の時節に生まるのである

醉生夢死、これ程人間を生れて申訳ない

事はありません

天地の目的は、これ、生る發展、だ

木々草々の葉の色を見よ

緑色、茶色、黄色、緑色

。稲を見よ　早苗の頃より收穫の時分に
至るを見れば　稲葉は新緑より深緑より黄
より枯
と見るであらう
否然らず　枯れるのではない
稲の生命は　稲穂に充溢してゐるのだ
三本の稲の苗から　何萬粒の生命が充ち
溢れ　ふくれ　ふるのだ　生々発展だ
稲穂の大通ぢ　米となつたのだ
米　より　稲　より　米
。人間　はこれ　天工を補ふもの　即ち
天地の働きを助くもの　即ち
生々発展を助くるのだ
。日本人　は太古の神勅に依り
「漂へる国を造り固めなす」ものだ
一切の国すべて漂へる国である
即ち修理固成だ
八紘一宇　天壌無窮　これ我等の
天業である。
。日本こそ世界無比の国だ
世界は日本民族に依り一統す

神話をのべませう
。ビスケットばかりで育てた、リスに山から取つて来た、くるみをあたへて見ると、どうです？
生れて見た事もないくるみの皮をむいて、中のあまい實を食べるではないか
また一つ
。若狭の国のある家の子供娘が或日子供と共に遊んでゐると突然狂犬が来て襲ひかかつた
コツ大変とばかりに、彼女は地面に立ちの子供を
脱ぎ捨てになつて子供を守つた
近所の人がかけつけた頃には犬が逃げたが子母
娘は息も絶え絶えになりながらたつた一語
「若様は？」とたつねた、母親は
大丈夫だ　との言葉をきくや　彼女はがつくり首を
たれて　息きれた
。話君よ、漂へる国はリスにとつては くるみの
實なのだ、何からしら、求めてやまぬ境地、
くるみのあまい實、これこそ最高の境地だ
。子供にとつては、主人の子供はこれ漂へる国だ
身をもつて厄災に向ずる、彼女の最高のまこと
若様　これこそ子母娘の漂える国なのだ

。花は咲いて実となる。花の咲くのは　実のためだ
。花は咲く　草花の結んだ種子にその発生食
がうつつたのだ　死んでゐない。
。種子に生きてゐる。何百倍何万倍にこ
。書物の霊長　人間　周ビことだ
人間　すべからく　天壽を全うすべし
。太古の人間は　長く天壽を全うした
。草や稲　すべての生物は皆　死なない
次の生命にうつつたまでだ
。人間　病死　不自然死　これ皆罪悪
。人間の天壽　百歳
氏、七十たつてどうやら物がわかる
これを過ぎて天壽を全うしたとは　不思
不孝である。あと二十年あります
。年寄こそ家族の大本です
年寄を邪魔だと言ふは不悪不孝、
年寄いてこそものがわかる
。悪業が本の幹がとても邪魔だきつて
しまへ　と言ふが如し
。皆、一連托生です

。天壽　翼賛は　健康に依らねばならぬ
◎そも　天孫降臨の即時に
大神は皇孫に八津日嗣の神器と共に更に
天津稲穂の稲穂をおあたへになつた
。春、うゑて秋　收められるものは稲
。一粒から何千倍、何万倍になるもの　稲
◎理想の食物　米
この米は神代の昔より　相うけつがれて年々歳々
つたものです　この米　一粒々々皆、神様
より賜つたものです
。この有難いお米を、白米にして食べる
何たる罰當りでせう
。玄米をそのまゝたべませう、半分も七分も
いけない、玄米こそ神のおあたへになつ
た至上なる食物だ
。一千万石増收はわけはない
玄米を食すれば良い
搗減りは一割出る一億万石の金額の

一銭出る

・しかも玄米は白米より少額で事足りる

。百姓さん一文もいらぬ良い米か

野菜の落葉や玉菜の外の葉をとって玄米か等外米をたべて、其上優良なものをうれば良い

等外米でも榮養は何ものにもまさる

。世の中を改造するには

ドン底の生活をせよ

煙や雪やアンドン、これで昔は充分だった

線香ででも道は歩ける

今は百ワットの電燈でも暗いという

。さて又前にもどって……

米は收穫の秋がくれば、頭を下げて食べてくれと待つてゐる

。二百粒の米のうち百粒でも盗たべて、一粒翌年又食べて下さいという

。食べなかったらそれこそ祟りは泣きすよ、おろかに成つておいたり、食べずにしまつておけば米はそれこそ死になりますよ、大の理の道理文者ですぞ

。食べようとして つかまへようとすると逃げて行

逃げて行かうとするものを食べるのは無理だ

。殺して食ふのだ

。生きたものを食べねば如何なる動物も病氣になる

。猫も死んだ鼠は食べない

。人間は死んだものばかり食ふ

例へば白米、ソーメン麥粉……

体が病氣を起すもけだし

。煙草……なくては生きて行けぬ

それはいかん！

これはつかれた人の言ふことだ

死んだ物を食べるからこんなことを言ふ

。酒も又煙草と同じことだ

◎これ皆サ玄米食道者には皆無だ

。食物に依って人は病気きまる

食は天地の大大だ

如何なる欲望も食欲にはかなはぬ

食を正すに依って、精神を正す事が出来る。

◎さて論は実体的に入りませう

◎玄米の日本に適する所以？

寒帯、温帯、熱帯人　完全食料として

亜寒帯、北欧海人　肉食穀食　獣肉魚肉

寒帯　　肉食穀食

温帯　　穀菜食

熱帯　　果実食

。日本は温帯ですよ　左の通り

文明人は元来亜寒帯の民族です

◎食物は年齢に依って左の通りになる

一才～三才　母乳　三才～五才小動物（獲得能力に致したもの）

男

四才～十才　穀菜食

十一～十四。　何デモ食ベル（但し肉体労働者に限り）

五〇～六〇。　穀菜食

七〇～一〇〇。　菜食

◎女は一生穀菜食でなければならぬ

子供の為にならぬ（生理的精神的に）

◎頭脳を働かせる人は絶対に肉食する必要はない

◎米の精白に依る各成分の損失（大阪衛生試験所欧元博士）

	固形物	粗蛋白	純蛋白	澱粉	脂肪	灰分	燐酸	粗繊維
玄米	一〇〇、〇	七、九	六、四	八七、〇	二、三	一、六	〇、八四	一、二
三分搗	九七、〇	七、八	六、三	八五、〇	一、九	一、五	〇、六四	一、一
四〃〃	九四、〇	七、三	六、二	八四、〇	一、三	一、三	〇、五五	〇、七
六〃〃	九三、〇	六、八	五、九	八四、〇	一、〇	一、一	〇、四四	〇、六
八〃〃	九一、〇	六、三	五、七	八三、〇	〇、六	〇、九	〇、三八	〇、四
白米	九〇、〇	六、三	五、四	八二、〇	〇、五	〇、六	〇、三四	〇、三
洗白米	五、一	四、五	八〇、〇	〇、三	〇、一六	〇、九	〇、〇八	
損失	七、二	三五、四	二九、七	八七、〇	九〇、〇	八九、三	九三、三	

完全食の標準

完全	不完全
生キタモノ	死シタモノ
新鮮ナモノ	陳腐ナモノ
不変質ノモノ	変質又ハ腐敗ノモノ
（例）玄米	（白米ハ七分搗以第迄）

◎意外有效成分
アルカリ関係
＊活動性類脂肪体
有害作用（毒素）

◎玄米灰分一〇〇瓦中の重要無機分

	玄米	白米
	合格	不合格
	完全	不完全
	(一)	(十)

燐酸 22.47
マグネシウム 10.79
硅酸 6.57
ナトリウム 1.03
鉄 1.63
イルーム 0.91
硫酸 0.28

＊活動性類脂肪体（生命素）
1. 油ト水トノ中間性
2. 固体ト液体ノ中間性
3. 無機物ト有機物トノ中間性
4. 死物ト生物トノ中間性

◎玄米ト白米トノ差異
玄米ハ白米ノ十倍ノ脂肪ヲ持ウテリル
消化吸収率ニ依ツテ玄米ヲ云々シテモ結局何ニモナラヌ事

◎「玄米反対論者曰ク
「玄米」外側ニハ抗ビタミンアリト
これは抗ビタミンに非ずビタミンを調節するものなり
又曰ク
玄米ハ白米ヨリ消化が悪いし
それは必要以上食べるからだ

米飯ノ消化吸収率及吸収実量

	消化吸収率 玄米	七分搗	白米	含有量実 玄米	七分搗	白米	消化吸収実量 玄米	七分搗	白米
繊維素	六五、二	八〇、五	八八、七	一、三二	一、〇一	〇、七六	〇、八五	〇、八二	〇、六八
含水炭素	九七、一	九八、二	九九、七	七一、五	六五、五	五九、七	六九、四	六五、〇	五九、五
粗灰分	八、〇三	八四、六	九〇、四	一、一一	〇、三九	〇、二三	〇、八九	〇、三二	〇、二二
粗脂肪	七四、五	八五、〇	九一、六	二、五八	〇、九八	〇、四九	一、九二	〇、八二	〇、四五

胃腸系統ノ治ツタモノ　七、四五一人
神経〃〃　二、四二四
必脳〃〃　一、五一二
肛門〃〃　一、五一四
坐膚〃〃　四〇一一
婦人病〃〃　七二一
一般ニ健康増進シタモノ　八、一二一

◎不治の病
脳膜結核、喉頭結核、腸結核
（栗粒結核、梅毒ノ三期（骨髄ニ入ツタモノ）
胃癌、其ノ他ノ癌、梅毒潜伏
其ハ他ノ病気ハ全部治ル

◎食と人生、食と精神
性悪説　性善説あり
◎人間の性は白紙である
（悪食に依り性は悪になる
〃正食をすれば性善になる
食事に依り人の善悪は決る

三、食と人生、食と精神
四、食と思想
悪思想は悪食に依る（動物食）
悪思想を退治せんとするには、先づ悪生活を革新せざるべからず、然らば悪食を根本より治さねばならぬ
◎子孫の為には
正食に依り正しい養育をせざるべからず
五、食と運命
運命の吉凶は食に依り決定す
小食にして粗食すれば人生の運命開く
六、食と疾病
悪疾は食の凶悪に依る
◎不良少年を徹底的に矯正するには
食事法に依り断然直る
◎理想の国は病院、刑務所等
何もなくなる
七、食と不安
一〇八の煩悩は悪食より起る

八、食と病氣
四百四病も悪食雑食より起る
過失傷害も悪食より起る

九、食と犯罪
犯罪者の大部分は胃腸病である
（米国の刑務所に依る）

十、食と貧困
悪食の結果病氣を招き末路を乏しくなる一家の繁栄を計らば正食すべし

十一、食と道徳
一、食と安楽、正食に依り安楽なり
二、食と霊感、人間万物の霊長五感以外の尊い精神の働きは正食に依る
霊感はやせた人にある
肥満した人には霊感はない

十二、食と発明
大発明家は大低寝食を忘れてゐる

十三、食と教育
心身共の伸張を妨げ道義を失ふは悪食に依る

十四、食と政治
政治の良否は其の国民を治めるには正しい人物を選ぶことである正しい人間を造るには食を正す事にある

十五、食と社会
人類の間の争の根本は肉食にあり
肉食する間は闘争やまず
肉食をさめれば平和来る

十六、食と天国
完全なる世界は正しい食をとることに依り起る

◎食事方法
調味料には生塩を用ゐ、砂糖とは用ひぬ
度数、一度、一日一人一食
二度、一日一人二食
三度、一日一人三食最ノ食

◎正食正養の事はそれに止めて更に一段深く神ながら道に つき語りませう

惟神道（カミナガラノミチ）

これは ことあげせざる道だ
神教基督教のやうに理論哲論をことあげ（言挙）せざる道

○神道、それは常識即生活を旅する真隨なる事実を実行する
○宗教は超常識的なものを多分に持つてゐる

何とはなしにやつた道徳 ―― 真の神道（シントウ）
意識してやつた道徳 ―― 功利的なる義的な道徳

◎人間が人間の道を行はば教へは不用
「大道廢れて仁義有り」老子ノ言葉な

神道は千秋万古一貫
古き新しき無し、太古より千歳の新来に通じてあやまる事なく時代に適應して行かる、神様の御心のまゝに行ずる
これには縁方と表ちはなし
○神様の御心＝神様の教、天地の道
○人間はこれ健康体、これ本体なり
病氣はこれ例外、除外
○隨落したるものは宗教へ走る
◎農道（農業）は萬物の糧とす
惟神道（農業）これ自身が農道
神そのまゝの顕現を楽しみ、みのりを楽しむ
西洋の労働は罰金記のアダム、イブの物語のように労働は神の罰である
然るに日本は「漂へる国を造り固メナス」といふ修理固成
我等の仕事こそ人間の本務
みをやのおしへ

人生・修理固成・これ生存の意識
（神代より農業は皇孫代々玉体を以て
お傳へになった
それを儀式に表はしたものが
○大嘗祭の即位式）

「惟道の行」の内容
一、祓除
二、物忌
三、清身
四、敬神（相手）
自他不二行

祓除 ミソギハラヒ
（曲を直たためて曲を直たかへさんと
する中間を共に行ぜんと
つとめる これ祓除の行
○人間が正しい人間たらんとする行

物忌 ―― 慎む、ユムに通ず 清まる
ミタブルに動める
物 ― 食物をさす
（食物に対して清まるかたすべく
「たぶる」に動める
正食をとるようにするものなり）

稲穂の神勅
○コシガウツロキアホヒトクサノ食トスベキモノケリ……
三種の神器と共に、稲穂をお下しになった
尊い食物で有 神から賜ったもの＝米

○神事＝儀式である教化修養である
行ずる ― 我等の生活である
みそぎ ― 祓除 ― はらひの行
（みそぎの即霊 ― 生命親我々
神棚、たなもとの、敬神

修養のためたなーたるものは第二職
（何とはなしに行ずる教化も修養
となる 日本は惟神からさうである
行＝業＝しごと、すること 本務
在世の間、値打ちこそにある

○西洋のは前にも言ったかく軍のつぐなれ
○日本は自己の負担の仕事を以て仕へ奉る
○奉仕の生活＝忠誠の生活
勤勞報国といへば日本的に何等の意
味もなし

勤勞即奉仕 即忠誠
生活＝忠
（忠なる意味を説明せんとするは
意味をなさず
（相対性 巧利的となる、
然らば遂に忠は亡びるのである
我等はいつぎまつる生活をつづける
（何はいつぎまつる精神は決して
衰へない
（敬神の精神の衰ない間は絶対
に忠である
真の忠はとき得ないのである
そもそも
家 ― 生活の中心 神棚
郷土の生活 氏神
惟神の国家 皇大神宮
「大安心」（祭壇中心として祖孫一貫
の信念にまきてゐる

○生きては祖先と共にあり
死しては子孫と共にあり
○即ち永遠の生命といふものがしっかり
と持ってゐる 天壌無窮
○前にも言ったかく
惟神道 ― 千秋万古一貫せるもの
あらゆる一切がこの道の上に営まれる
のである
本富の日本人の精神を持ってゐるものは
「正直で親切」である
無念無想の心境＝清明の心境
（神道）
○神道の世界性
こんな言語は必要なし
神道即人類の道、世界みをやの道
○犠牲＝日本にこんな語は必要はない
（おれは君国の為に犠牲になった といふ語
は間違だ

臣民が君国のために奉仕したといふ
（意で決して犠牲になつたのではない）

奉仕（マツラウ）
これ日本国民の真の姿

◎日本国体の姿である

報国――これは支那式だ
国と我とは対立的になる
りしおらん事である
そして又これは、お互お互の間に於ても
又然りである
国いよ〳〵まと処、うつて一丸となる心
これ大和心、この心がまつらふ心
●この心あらはれて忠孝となる
●この意味でいつて犠牲といふ語はない
●日本精神は敬神を除いては
日本精神はない

論を更に深くつきとめて
語りませう

神道からの道（天地の大理 世界の公道）

一切は自然である
宇宙の物心を合せた大義の自然だ
自然をつきとめたところに解決がある
人間の生きることは誠である
誠の生活をせよ――百姓が一番だ
（都會は物質的に惑まれてゐるが精神的には墓場である）
◎開拓は神に對する感謝がおくる祖先に
對する感謝をする、
○汗を流して勞働三昧がある
◎汗は心身を浄化される、その境地は
神の境地である
◎私利私欲をはなれて勞働三昧に入るとき
神と通ずる事が出来る
◎人間は神の造りしものなれば神の子だ。

○艱難は人を造る
病氣は人間に道を作ることを
あたへる恩寵である
病氣は自然が直す、
自然の誠の道を知つたならば直る
自然に返ること、
◎薬をのまねば病氣が直らぬとは
迷信である
○人間には自衛力あり、その自然に返
ることに依つて病氣退治が出来る
○現代文明は行き詰る
○文明のボツラク である
○革新の時来る
○日本主義に依らねばならぬ
●日本主義とは何ぞや？
玄米菜食の正しい食事を
とれば自ら通ず
人間は自然のあらはれだ

○本當の生活をせねばならぬ
○白米を食ふのはうその生活だ
○野菜を殺して食ふのはうその生活だ
○朝のみそぎは邪悪を除くのだ
○朝の正座は天地と合体のためだ
○朝の深呼吸は天地の正氣と人間の正氣
との合体のためだ
○現代文明の発展は化物の発展だ
○都會は人世の墓場
○しかるに大都市計畫などゝは恩の骨頂
○大都市計畫は亡國の様だ
○亡國の実例が差し當り、東京だ
現代文化は覇道　結果は不幸
文明の四大目
大安（思想）大平（開発）大健（生活）大道（學業）
恩の先達をする人は現代の學問をした
人である

覇道→皇道、獣身→仏身

今事変は世界を救ふ
大変革である 黎明だ

日本男子、アメノマスビトとして
世界を救はねばならぬ

○人間はすべて神に救はれてゐるのだ
○自分の力ではなく 神の力だ
○神に依って一切は通ず
○金持の金は、世の中の為たつかはんが
ために天からあたへられたものだ
○私利を忘さぬるのは だめだ
○人間は神の子たかへり 無我大我になな
らねばならぬ
○皇道を世界にしくは大我の精神
自我は行き詰る
大我即、皇道精神

○皇道大本は神命(ミコト)、神性(マコト)、神産(ムスビ)、神政(マツリ)
○根本精神は幸魂、和魂、奇魂、荒魂
○立国原理は性善、養正、農本、公道
○基礎は思想生活、事業、潮流
○文化目標は大愛、大賢、大道、大平
まことは一切の行の基本
まつりは人生生活の原理、農本、主義
まつりは、公平無私 ＝太平となる
民神様を畏なる宗教とするは同道
みこと、祭、政、経、産、義
以上で大体おわかりと思ひますが
次はもっと一段理論を進めます

まへがき

一、非常時解消の唯一の道、又世界平和策として最後の断案進んで真文明開発の奥義妙策として此度に理論や主義に基づいてのみならず、實行案を全日本国民に提唱致します

二、世界は武力のみで統一平和に帰るものでないと同時に思想や経済又外交等々に依る所謂非常時の変態なる各種の戦線そのいづれかの勝利(覇道的)で世界に平和お又全人類の幸福が将来するものではない

三、人民戦線ー国民線戦ー皇民戦線、又労働運動ー農民運動ー愛国運動等々全てすべて過渡期に於ける熱血青年の息吹に息まれぬ正義誠忠の現れか……三者すべし純潔の志士仁人諸君よ、大衆は何を求めてゐるかではない「天は人に何を求めてゐるか」

四、闘争に又闘争……混乱と又混乱ーそして腐敗の上に腐敗ー堕落の上に堕落、此の無無節制無秩序……その中に牙を鳴らす国角を振る人……人類は何處へ行く、世界はどうなる、今ぞ上下ー左右の対立をこそ撃て日本傳来の全一絶対無上道の発揚と飛躍で

五、道はあり、それは平凡で卑近で容易しかも東西上下の差別なく人と人とのみか人は何人も行ける又行はねばならぬ道の道たる道……此の道さへ行へ、そして之れを世に弘めれば必ず道は統一……

六、道は天地自然の道……天に(日地に(皇……億兆一心、世界一家、是れ不動の天則、これ天則の中にこそ人間生活の原理も皇国と体の本義もあり、神人一、君民一、親子一、夫婦一、四海一、憲自他一、此の大本を厳祝して何の一新、何の救済、何の復興、何の文化ぞある

生活維新

一、国を憂ふる前に自ら足元を見よ。燦然と咲いた妖花二世文明は已もこの頭も手も足も悉く腐りて亦、笑人でござるぞ。是れを氣づくが不幸か、氣づかざるが幸か

二、濡れぬ先は露をもいとふと云ふが濡れて濡れての果は又乙として正氣を失ひ立つ能はざる醜態を天下に晒しても恥ともしない

三、此の醜態は正に吾真美を見ていれば禁欲、それは非文明、それは消極的又は原始人流といふ此の正邪分野をも色別し得ざるほどの盲目は文迷といふ魔酒に酔ふたなりの果ての一

四、人間味といふ動物性を讃美し五官の衝動に意馬心猿を放て生活原理となし奴隷は煙草、菓子といふ味覚の奴隷となりて邪淫非行、それがあたかも人間の特権と逆せて居る

五、人間も社會も病的の未稍神経の尖端に狂ふて居る。相貌は何といふ態か、胃腸病患者に花柳病患者、窮窟犯人に濃職犯人又自殺者に他殺者更に貪欲人に狂乱者はふえるばかり醜い極み

六、盗人泥棒で監獄行きを恥とする人間も暴飲暴食で病院入りを恥としない、罪も病も皆同じ人間の非行乱倫から起る。即ち病罪同根、此の恥を恥と知らぬも文迷人の一特色かな

七、低級劣悪の人欲に踊る都會から……酒屋と料理屋と菓子屋と化粧屋等を除かば市街はガラアキとなり人間の声は聞えるであらう……真の文明はそこに芽生へる

八、世界の各国は年々軍備擴張に死もの狂ひ……大いにやるべしか、併し神道道義にもどる事は今日迫むと天罰自罪下内から山開れる　誰かその世界人類の為にの御用言がある

九、真、善、美の味覚が狂つてゐる二世文明の到達病患者には如何なる社會的施設をそなへ無駄此救れ唯一の妙法ありしれは生活の根本立直りをしていその慈を仰ぐまでである、是れ

正心（マコト）無私の真心で常に陽氣　名利色の三欲を慎しむ事　慢去　光明正大

正言（ノリト）正直で萬事良心に従い虚偽貪の三悪を御すること　虚去　真実明快

正行（イブキ）勤勉で諸業現世を欺かず朝寝夜更怠慢邪行を去ること　奢去　奉仕精励　内的

正衣（ミソギ）質素で整頓清潔にして奢侈虚栄にわたらぬこと　飾去　木綿和服　生活

正食（ミケツ）粗食に菜食節制で白米大酒喫煙内食間食を慎まること　邪去　玄米生食

正治（キヨメ）実用風雅を尊び贅沢虚飾悪流行を真似せぬこと　贅去　木造平屋

正業（ムスビ）天意を奉し公益国利を主とし偏平賄事醜業をなさざること　私去　公益国利

正事（マツリ）政策等一切の行事は心を主として偽礼空費を除くこと　貪去　正風振作　外的

正望（ナカヒ）常に新しく清く正しく強く希望に生き自暴自棄に落ぬこと　名去　無私大愛　対人

正計（ミコト）人世道の為に討り私利私慾野心野望に迷はぬこと　利去　興国安民

此の道を実行すれば貪病弱の三大不幸が無くなり病院と監獄とが大方無用の時来らん

此の道を実行すれば修身斉家興村立国安世の淨土が開かれ一萬人帰真萬国光化大無為成就

自他更生の道は此の実行あるのみ、又忠孝貞の徳も此の中にあり、是れ自然真感に入る妙法

国民道徳上より見たる生活維新

悪思想は悪の生活から、悪の行為は悪生活から、諸悪罪は悪生活から

1. 人間は悪食すると悪血悪質の人間となる
悪食とは大酒、白米飯喫煙、美食過食肉食食等の不自然食をいふ
此の不自然食は人間の良能を滅殺し天来の徳性を破壊して悪性盛旺と人間となる

2. 人間は道の顕れ大自然の寵兒で又神の子ともいふ
悪は自然に嫌はれとなり善は自然に好きに出る。好きな事も好きな嫌れたりもそれが悪く
道に逆ふやうな大自然人となるたは良心と聖性に従って正しい生活の実行を外ない

3. 人間は正しい生活をすれば身体健康、精神明朗、性質純良、思想健実、智能増進、品位向上
其の他あらゆる人間の徳性が現はるる

4. 正しい生活とは皆不自然的悪生活の結果である
人間一切の苦痛は皆不自然的悪生活の実現と職自ままを更新すること
さらば果敢な自然も教育もすべて此の正しい生活の実現を職自ままを更新すること

5. 真の文明は自然を征服すると云ふ反自然の事ではない
自然に副ふ事である所謂自然活用―自然順応する事が出来る
病気や食と人生の不幸なることは皆天則違反の不自然から起る

6. 一家の小度果よく人を敬し家を傾け国を亡ぼす事が少くない
自然の生活それ真実の生活である　　真実これ神

国家経済上より見たる正食正養

生活維新に依って生ずる利益

酒　十四億　一年一人平均三斗六升
菓子　七億　世界第一
煙草　四億　一年一人平均千八百八十本（但男子二十才以上）
白米　五十四億六千九百万円　精白賣揚減腐遺食　十二億六千六百万円
（この頃二木博士見積）　有害作用ニヨル不健康ノ損失　十六億四千二百万円
（医薬代看護費）
高價副食物ニヨル損失　二十五億六千二百万円
（損害）

合計　五十億円以上　百億円也

⑩ 生活維新に依って百億円が浮ぶ
百億野蛮の叫ばれてゐる今日先づ先決問題は生活維新
普通の人が重大視して居ない所に重大事がある。人間に取って重大中の重大事
食にあり、これ生命の本、活動の本、道義の本、経国の本、済人の本、健康の本
平和の本、此の本を正さずして何の教へ、何の道ぞある

中等度勞働を為す場合の三養素及其の熱量

	脂肪	蛋白	含水炭素	カロリー	灰分	燐酸	石灰
新日本標準	一六〇	五〇〇	四〇〇	二〇〇〇			
高木仮四合	一五九	四三〇	四二九	二〇七三	八三	四九	七二
近等米四合	四六	四一八	四三三	一九八六	一二	〇六	〇八
支那場四合	四〇	三一〇	四二一	一八九七	一二	〇六	〇八
白米仮四合	一八	二七	四四三	一九二七	〇六	〇五	〇五
太麦仮四合	一六九	五二四	三六〇	一八四二			
鳥獣肉四貫匁	一四四	八〇三		四六三			

○以上の表に依って玄米は單に有效といふよりも玄米でなければならぬといふ事がわかるだらう良いといふ事が出来めとあらば戰爭に出て進ぜる非淸者、既の非淸者が銃後の稽古がつとまらぬ

○何食事の事に位かと徒らに天下國家を論ずるを以て一角の国士を氣取る者も時勢推移すくないが、其の大言壯語にも似ず一杯の酒一服の煙草すら慎しみ得ぬ白米中毒者と未だは辭柄の極だ

○上下四を一にして旺んに通ぜる立て可き時吾々臣民はひとり相義の事義務の強習をなすべきりく白米に暴飲に暴食に乱費に乱費に乱費して品位を失墜する時勢の實大淵源はこゝにあることを深く知るべきである

淸潔ニヨル損失率

脂肪 四二%
蛋白 一六%
含水炭素 二%
灰分 七三%

○動物ヲ食フト動物ヲナル、植食人種ノ者
○菜食ハ靈性ヲ培養シ肉食ハ獸性ヲ培養スル

○張出横綱 白米軍將士

生活生業之番附

東

西

（雄大）
（本）
（高）
（中）
（農）
（神）

（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）

（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）

（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）

（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）
（陸軍）
（海軍）

○張出横綱 不潔食家

横綱 玄米菜食 高橋三度食事
大関 不時茶飯 同 清潔菜食
関脇 [illegible] 同 [illegible]
小結 生食清水 同 [illegible]
前頭 茶漬飲食 同 山岳修行
同 果物菜酒 同 山岳山物
同 喫煙禁酒 同 [illegible]
同 [illegible] 同 [illegible]
同 [illegible] 同 [illegible]

横綱 白米飽食 [illegible]
大関 果物果食 同 清潔[illegible]
関脇 [illegible] 同 [illegible]
小結 喫煙禁酒 同 湯茶[illegible]
前頭 通勤徒歩 同 スポーツ
同 朝寝夜更 同 マージャン
同 生食徒食 同 都會生活
同 午睡不潔 同 毛織洋館

行事 天之番人

御建元 神ノ国 日本

横綱 自然一体 天之神人
同 物心一如 [illegible] 長命長人
同 [illegible] 同 [illegible] 樂病長人
同 天之孝心 同 大徳君子
同 [illegible] 同 [illegible] 絶滅元勲
同 天業教育 同 [illegible] 無名聖者
同 [illegible] 同 [illegible] 上流官吏
同 天業奉仕 同 [illegible] 忠臣義人

横綱 [illegible] 中庸忠者
大関 [illegible] 同 [illegible] 年 花柳病人
関脇 [illegible] 同 [illegible] 早死亡者
小結 [illegible] 同 [illegible] 白痴狂人
前頭 [illegible] 同 [illegible] 奇 奸臣佞奸
同 平等主義 同 [illegible] 拝金信者
同 [illegible] 同 [illegible] 衣食奴隷
同 獸性覇道 同 [illegible] 不良少年

（皇道大本）

空間……無辺無量（絶対）和魂

本体（時間）

本質……（不滅不滅（至小）〇鏡 神

不生不滅（至大）

無始無終（無限）幸魂

宇宙

陰陽 水火 寒暖 （二極）一、剣 道

火水 光暗 動

現象……無知無色（自然）奇魂

機能

本能……（不知不識（至純）十 霊 体

不善不悪（至神）

活動……無為無心（本能）荒魂

（神州皇祖）

神（民政 和治 民本 和主……祭政一致。神本 民生

領土（和有共同 人 争奪 分割

天授天物。献身 報国

主権 金権武力 人 半金 輿之

大権統治 ○ 為也 一 之

人民 利己本位 人 権利 搾取

一国一家 義 寿 考 久

道 富民 別待 人 自由平等

君民一体。是 身一寿

日本

外国

天皇 天道ニ基ク日本国体ハ実ニ萬邦無比 是ニ反シテ外国ノ人造国家 和製王国ハ

興亡 系 興亡常ナシ、永利 永欲ニ本ヅク民本 私欲リコニ 個人ノ平和ガアル

又天是 天意ニ基ク神洲日本ハ 永遠不滅ナド金力武力 商法ヲ本トスル覇道

外国ニ 何ノ霊威 徳望ガアル 弱肉強食ノ 第二覇道ヲ等フハ 殺伐ノ等道

本国表ヲ 玩味シテ 天下太平ノ道ヲ立ツベシ

政教妙諦

1 神ノ農本主義の大道上 政治教化救済文化は 偏きたまさる

大神 ……天 ……より 出る 法政 皇孫の 御正である

2 上は 皇室 官から 下は 農民 民 至るまで 皇道 を 中心 上 仰れば、日本は 三日

なりとして 神 天に 満ち 和 御 道 清く 治れ、世界の 系王 国 兵 庶、何たる ハガ 二 事 せう

3 不徹底なる 教育 教育 事 不良 学 徒 徒 不 学 士 不 官 吏 の 民 業 の 手 助 け か

力あるもの、自腹 肥やし 為 国 つて 居る 方には 何の 利益 もない 様で……

4 大立直しの 先ト 一時 方便として 何かやる 必要 なる、そこで 騙つて 居る 人には 無要 口 か

神 人 一 体

1 一を神 と 十を道 とふ 萬物は 一にして 十十 一 である、故に 世界は 神の 本に 一 至 一 国 一 政 一 教

の 原則の 本ト 萬国 萬 該の 大道 を 同 くべきである

2 上は 神中心 下 天皇 一 給 下は 農本位 国 自治 是れ 天則地律 人道 である

此の 大原則の 本に 世 立 国 興 村 育 小 後 人 の 大道 を 立 て れば 天地と 俱に 窮り 無く 永遠

3 新日本国 来とか 復 復 来 は 時 命 語 病 後 の 筍 の 様に 現るゝが 理論的の 桃上 柴

なら 破戒坊 主の 説 説 た 寡 一 魂 心 ない 名 寡 を 結 筍 進 寡 上 後 る

4 ホントに 国の 為 皇 の 為 に 一 力 を 尽 ハ ケ て 三 人 が 統 を 現 は れ て 来 れ た ら 一 番 心 強 い が

未だ 〈 と 言 て 居 ら れ ぬ が 出 さ う で 出 ない

天地經論

1 横着者が勝ち悪い事をしなければ生きられないような社会になってゐる今の世の中—小人や弱者は吾も〳〵と其の道に落ちて行く

2 なくす者の自由主義、ばか者の平等主義は此の乱雑乱棒する不統一無秩序な社会を産み出した、全く無政府的な不道徳的な国どもである

3 政治学者や経済学博士たちに[illegible]行けど皆[illegible]徒に立たず—大都市出現を謳歌するにぜの[illegible]

4 大都市は[illegible]失業者や高等遊民又官吏を未[illegible]国にやって大自然の懐に[illegible]一[illegible]得

5 [illegible]人間の生活[illegible]日三時間か四時間ですみ[illegible]其の[illegible]文化加をされ大[illegible]

生成 [illegible]

1 商人や官人や罪人がふえる様なフシダラな国や人間を堕落させる様な待合や料理屋やカフェー[illegible]非業[illegible]である様な国はなってゐない、しかもかゝる[illegible]する[illegible]の[illegible]が思ひやられる

2 [illegible]

3 [illegible]

以上で大体お話の大要をのべました　最後に、憂国の志士である立山塾長大道先生の述べられた「大自然の道」をのべて、結びたいと思ひます

(四)大自然の道

農は国の本 — 道の本

天地の生成化育に奉仕する唯一(コンポン)の神業(カミワザ)

さらば昔から農は

諸学諸教諸業の本といふて萬人必至の人生の行

物の種は大地に落されて其の真芽をふくやうた

人の天分も大地に立って其の霊能を顕はす

萬国の本、神洲日本の大国是は此の天意天則たる

神中農本—即勤皇と勤農にあり

大神宮 — 内宮 皇祖 天照大神 ／ 外宮 農祖 豊受大神

御大典 — 即位式 日嗣 ／ 大嘗祭 穂嗣

而して畏れ多くも萬機御覧の御身であらせらる

天皇陛下には御自ら此の農の大行をみそなはさるゝ

日本の天地と共に窮りない萬古不易の

国体の精華こゝにあり

日本を興し世界を救ふ秘義は此の中にあり
真の人類の健康 大地の生命に培はるゝ（食の親）
真の世界平和 大地の光明に恵まるゝ（光の本）
要するに萬人に其の所を得、萬国にその位に安んぜしむる所の
彌栄の文化この中に開け
我が肇国の大精神、億兆一心一世界一家一政一教の大道 その中に建つ
醒め 全目覚め
地から離れた浮調子の浮薄な虚偽と偽善に充された出来文明の仮面
をかなぐりすてゝ
大地に立って、天地を経文とした古の
神むすび神まつりの栄えある道に求れ
真の天地と一体となるところの此の神業の中に
神人一如の大人務
世界修理の大経綸
が待らる、故に此の大地一切に通じ民を知らずして
何の経綸（政教）もあるべき人
さらば来い、天下為国、為人
此の大自然の道へ妙なる光の世界へ

399
3

まだ〳〵述べたいけれど、この辺は
これに止めて、又ところをあらために述べ
たいと思います
極めて簡単、頗る乱文、まとまらない
文章を書きつらねて申譯ありま
せん 尚研修舎の講習講話
はもつと微に入り細を穿つものがあつ
たのですが、浅学菲才、思ふ様の事
を文章に表はす事の出来ないの
が残念です
更に度度舎に依つて、補ひたいと
思います、何卒迷文 其の事を
且、印刷も不鮮明の事を、なつて者
すみまで、護んで下さい

鶴生

〔吉に青年圏 報臨時号〕
昭和十四年八月二十日印刷
昭和十四年九月一日発行
編輯兼発行人 吉に青年圏 學務部
編輯責任者 鶴 庄 閑
印刷所 吉に小学校

非賣品

此ノ臨時号ハ小学校在学中ノ兒童ニハ頒布シマセン

終